

# 近代オリンピックで“人権”

## ブラックパワー・サリュート (Black Power Salute)

~アメリカ公民権運動で黒人が拳を高く掲げ黒人差別に強い抗議を示すこと~



1968年メキシコ大会  
陸上男子200m表彰式

## 私はあなたとともに、立ち上がる (I'll stand with you.)

1968年のメキシコ大会陸上男子200mに出場し、当時の世界新記録で銀メダルを獲得したオーストラリアのピーター・ノーマン。銀メダル獲得という快挙の中、彼は2人のアメリカ合衆国の黒人選手とともに覚悟を決めて表彰式に臨みました。

アメリカ合衆国代表として、世界記録で優勝したトミー・スミスと3位に輝いたジョン・カーロス、そして、ピーター・ノーマン。表彰台の3人は、左の胸元に、人権を求めるオリンピックプロジェクト(OPHR)の白いバッジを着けています。このバッジは、ほぼすべての黒人選手がオリンピック期間中に身に着けていました。人種差別への抵抗のしるしです。



白いバッジ「OPHR」

## 公民権運動とは・・・？

アフリカ系アメリカ人への公民権の適用と人種差別の解消を訴える運動のことで、1950年代から60年代にかけてアメリカ合衆国内で盛んに行われるようになりました。その結果、1964年7月2日に黒人の人種差別を法律上禁止する公民権法が制定されました。

しかし、1968年、公民権運動の指導者であったマーティン・ルーサー・キング牧師が暗殺されるなど、人種差別はまだまだ続いていました。無くならない差別とキング牧師の暗殺で黒人アスリートたちはオリンピックのボイコットも考えますが、オリンピックの舞台上でアピールするため出場を決断します。

## オーストラリアの白豪主義

オーストラリアでも、白豪主義と掲げ、白人優位主義とアボリジニなどの非白人を排除する政策が行われていました。

1901年の移住制限法制定から1973年移民法までの政策方針をいうことがありますが、オーストラリアにおける人種差別主義の歴史全般を指します。

# を求めた勇気ある行動

## 表彰式後のピーター・ノーマンの苦難と信念の人生

当然、白豪主義を掲げていた祖国オーストラリアからは、非国民、国民の恥と、批判の嵐でした。ノーマンは歴史から抹消されたかのような扱いを受けました。

その後、1972年のミュンヘン大会への出場資格を得たにもかかわらず、オーストラリア代表から除外され、ノーマンはスポーツ界を引退します。

そして、2006年10月3日、ノーマンは心臓発作により、64歳で亡くなります。結局、白豪主義がなくなった後も、ノーマンのメキシコ大会での勇気ある行動が称えられることはなく、オーストラリア政府がノーマンに直接謝罪することもありませんでした。



棺をもつスミスとカーロス

## 名誉が回復される!

～差別に負けず、平等に対する信念、行動が社会を変える～



晩年のノーマン

彼の死後から6年たった、2012年の8月、オーストラリアの国会が正式に謝罪を發表しました。それは、1968年のノーマンの銀メダルの獲得と、その表彰式でとった勇気ある行動を称え、ミュンヘン大会の出場権剥奪と彼への批判を謝罪するものでした。

## 「TAKE A STAND」

アメリカ合衆国では、スミスとカーロスは人権のために闘った英雄になりました。歴史はスミスとカーロスの行為に正当な評価を下し、2005年、サンノゼ州立大学に卒業生である二人の行為を祝して左の像が建てられました。



1つは「ここに立ってみてください」。

もう1つは、

みなさんなら、どう考えますか。

